

講義名	労働経済学		
科目区分	学部専門科目		
担当教員	丸山 亜希子		
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 3時限	授業形態	
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

**主題と概要**

近年、日本の労働市場は大きく変化している。パートタイマー等の非正規社員が増加し、一方で働く女性や高齢者が増えている。さらに、正規社員については成果主義が導入され、従来の終身雇用制度を前提とした日本の雇用慣行は崩壊に向かっているとされている。この講義では、日本の労働市場を経済学の視点から把握し、そこから何らかの政策的含意を考える。

**到達目標**

目標 経済学の観点から、労働市場の現状を的確に把握できるようにする。  
 例えば、終身雇用制度はメリットがある一方でデメリットもある。こうした各制度のメリット、デメリットをしっかりと理解することで、労働市場の変化を理解できるようにする。

目標 経済学視点で適切な政策を検討することができる。  
 現状を正しく把握できるようになれば、それを踏まえてどのような政策が有効かも検討できるようになる。

**提出課題**

毎回、課題を課しますので期限内に提出して下さい。また、最終課題を課す場合があります。第1回の授業回で詳細を話します。

**課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック**

次の授業回で解答・解説を行う予定です。

**評価の基準**

課題 100点  
 最終課題を課す場合があります。第1回の授業回で詳細を話します。  
 毎回の授業で提示される課題の未提出が5回以上となった場合、成績評価は「放棄」となります。

**履修にあたっての注意・助言他**

締切り厳守です。期限後の提出は未提出扱いとします。

<b>教科書</b>
.使用しない。

**プリント資料及び参考文献**

Ryuka Portalからレジュメと課題等を配布しますので、毎週講義連絡を確認するようにして下さい。

主要参考文献  
 『労働経済学入門』 太田 聡一、橋本 俊詔 有斐閣

その他参考文献

**授業計画**

- イントロダクション～この授業で扱う内容（15回分）の紹介
- データでみる日本の労働市場
- 賃金と雇用の決まり方（1）労働需要
- 賃金と雇用の決まり方（2）労働供給
- 賃金と雇用の決まり方（3）均衡
- 賃金格差：なぜ人によって賃金は違うのか
- 学びと訓練（1）～学歴
- 学びと訓練（2）～訓練
- 日本の雇用慣行
- 内部労働市場とは
- 人が仕事を辞める時
- 離職と転職：労働市場の流動化
- 失業
- 若者を働きやすくする
- 最近の労働政策の解説

**授業形態（アクティブ・ラーニング）**

ア：PBL（課題解決型学習）
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート
エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

**準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間**

配布資料を使って授業を行うため予習は不要であるが、毎回復習として要点をまとめたノートを作成すること（4～5時間/回）。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

**実務経験の有無及び活用**

**備考**